

四谷の

千枚田だより



第 239 号



カジカガエル

国際協力機構(JICA)の研修員受  
入事業実施に係わる現地研修会  
名古屋大学農学国際教育研究セ  
ンター江原宏センター長からの依  
頼で「アフリカ地域 稲作振興のた  
めの中核的農学研究者の育成」の一  
環として「四谷の千枚田の稲作及び  
地域の取組について」と題して研修  
が行なわれた。この事業は、令和二  
年にはアジア・アフリカ地域、令和  
三年にはコロナ禍で研修員の出国  
が不可のため、動画配信(英訳)を、  
昨年と今年にはアフリカ地域の研修  
員を対象に実施した。



本年の研修員はコンゴ、マダガス  
カル二名、セネガル、ウガンダ二名、  
ザンビア、エチオピアの六か国八名  
の農学研究者(博士二名、修士課程  
三名を含む)の一団で、兎にも角に  
も熱心さには、タジタジであった。

主なQ&A  
Q 肥料の量と施肥回数：A ほと  
んどが「ひとまきくん」で十坪あた  
り二袋(四十kg)を基準としている。  
Q 水の管理：A 全部の田んぼが  
湧水であり、稲は温暖性植物で用水  
を温める必要がある。(その先人の  
工夫「あと」や竹樋の仕掛けを身振  
り、手振りでも説明したところ、研修  
者は感嘆の声を上げた)Q 除草は  
：A 主に、除草剤を使用している。  
また、手押し除草機「はったん」を  
使用している。(実際に「はったん」  
を転がしたところ、研修員自ら行う



など、興味津々であった)Q 品種は  
：A 中山間地向きの「ミネアサヒ」  
であり、のど越しの食感に優れた品  
種である。その他に、植えてから収  
穫までの水の量等々、多くの質問が  
あった。  
研修終了にあたり、研修員代表か  
ら中山間地域の農業手法、取組など  
多くの知見を得た。それぞれの国に  
帰って稲作研究、普及に役立てたい  
また、素晴らしい段々田んぼの保持  
は大変であろうが、続けてください。  
Mr小山も是非、アフリカにお越し  
ください。と、労いの言葉を戴いた。  
当方としても、アフリカ諸国の農学  
研究に少しでもお役にたつたこと  
を誇りと思えますと、述べた。

絵画コンクール作品募集

二〇二三年「四谷の千枚田」絵画コ  
ンクール(主催 鞍掛山麓千枚田保  
存会・東三河郵便局 共催 新城市、  
新城市教育委員会、新城市観光協会、  
奥三河観光協議会、東愛知新聞社)  
で実施します。応募対象は小学生・  
中学生。入賞者には本年度新米・図  
書券・五平餅セット他多数。  
問い合わせはNPO法人国内産米の粉  
伝統食文化推進ネットワーク  
0532-29-0808

http://kokukome.com/

チラシ・応募ハガキは東三河管内郵  
便局店頭、千枚田案内看板、新城市  
鳳来寺山自然科学博物館、奥三河観  
光協議会、八雲だんご直売店ほか

愛知県新城市  
「四谷の千枚田」  
受付期間 令和五年  
8/1 ~ 9/30

第6回  
**絵画コンクール**  
作品募集 2023

**テーマ** 「四谷の千枚田」四谷の千枚田の「自然」や「農作業風景」、「体験学習」など、自由に描いてください

**応募対象** 小学生・中学生

**応募方法** チラシと一緒に配布される専用ハガキでご応募ください  
①東三河郵便局店頭 ②新城市立鳳来寺山自然科学博物館内  
③四谷の千枚田案内看板前 ④八雲だんご直売店他にも置いてあります

**審査** 10月中旬以降に鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局が応募者の  
中から入賞者を選出、NPO 国米ネットホームページ上で発表。

**主催** 鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局

**後援** 新城市、新城市教育委員会、新城市観光協会、  
奥三河観光協議会、東愛知新聞社

**入賞商品** 当 NPO 法人ホームページに記載  
本年度新米・図書券・五平餅セット他多数  
応募いただいた全ての作品は返却いたしません。また、受賞作品に限らず、全ての作品の使用権は、  
主催者に帰属する事といたします。主催者と協賛社が作成する出版物、広告媒体、ホームページ等に  
作品と学校名・学年及び氏名を無償で使用させて頂く場合がありますのであらかじめご了承ください。

応募してね!

NPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク  
☎0532-29-0808 (株)丸八製菓内  
(当 NPO 法人ホームページ: http://kokukome.com/)

四谷の千枚田の四季おりおりの風景を掲載しております。  
是非こちらのQRコードからご覧ください。

千枚田のモリアオガエル



**四谷の千枚田に  
リアル案山子(かかし)登場**  
今年、長靴を履いた百姓姿の四人  
七月十六日、リアル案山子が今年  
も登場した。



製作したのは設楽町の「チーム  
「TAKO」の六人。チームは毎年、  
千枚田の整備、保全を続ける鞍掛山  
麓千枚田保存会に製作した案山子  
を届けており、今回が七回目。丸八  
製菓が、知名度向上や足を運んでも  
らうきっかけとなればと協力して  
くれている。昨年製作した昭和三十  
年代の農家の庭先の風景を再現し  
た案山子たちを入れ替える形で今  
回展示されたのは「千枚田の五平餅」  
長靴を履いた百姓姿の四人のうち  
の、三人が形を作ったり、やいたり

して五平餅づくりをしており、一人  
が一升瓶を抱えて寝ている。細部ま  
でこだわり、まるで生きているよう  
なりアルサで存在感を示している。  
リーダーの村松一志さんは「五平  
餅をテーマにしたのは初めて。納得  
できるものができた」と笑顔で話し  
た。小山会長は「毎年案山子に千枚  
田をにぎやかにしてもらっている」  
と感謝する。

設置された場所は、棚田下の駐車  
場、道路からすぐで、見学しやすい。  
「東日新聞七月十八日掲載引用」

### 視察研修 恒例事業

エコネットあんじょうは市民、市  
民団体、事業者、市が力を合わせて  
安城市の環境を良くしていこうと  
する地球温暖化対策地域協議会「エ  
コネットあんじょう」という協働団



体であり、各種の部会を持ち、環境  
活動を行っている。

七月十五日、くらし部会活動とし  
て参加した十八名は「自然の恩恵に  
感謝し、その自然の中での生物多様  
性の有り様に気づく」をテーマに自  
然環境、多様性に富んだ四谷の千枚  
田の魅力を堪能した。

参加会員の中には平成元年「第九  
回中部環境先進五市サミット」新  
城一で私の「基調講演を拝聴した」  
「安城での講演会を聞いた」等々の  
方々もみえ、和気藹々のひと時を過  
ごすことができた。

### 念仏踊り

念仏踊りは災厄退散や亡魂鎮送  
のために行われる盆行事で、正月と  
並んで日本民族の二大祖霊祭とも  
いべき伝統行事である。

かつて、この地で盆踊りが盛ん  
に行われていた集落は大代・大林・身  
平橋・与良木・方瀬・真菰・山中・  
須山・入洞・川壳組等であるが、現  
在では身平橋組(西組共進連)と方  
瀬・真菰組(豊真連)の二つ集落の  
「はねこみ」が市指定無形民俗文化  
財として伝承されている。

この地に伝承されてきた盆踊り  
を民俗学者五來先生、三隅先生、鬼  
頭先生たちもご来訪、その都度、お  
会い、お聞きしたことと、十三歳か  
ら身平橋組の盆踊りを継承してき  
たことなどを振り返って、「入り庭、  
念仏、はね込み、取り唄、手踊り」  
などの一連の流れを個人的に、大胆  
に推察すると、先祖を供養する盂蘭  
盆会(うらぼんえ)と結びついた盆  
踊りで、「念仏踊り」よりも「踊り念  
仏」のような気がしないでもない。  
名称も「はねこみ」とか「念仏踊り」、

「盆踊り」など、種々雑多に呼ばれ  
て来ていることも、それだけ、長い  
歴史を辿ってきたことが窺われる。  
○八月十三日、身平橋海源寺で午  
後七時半から本尊様、先祖供養の念  
仏、はねこみが行われる。  
○八月十四日夜、連合溜水の原田  
育子さん宅で庭受け(豊真連)の盆  
踊りが行われる。



行 令和五年八月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文責 小山舜二